令和６年度　第１回　信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

１　日　　時

令和６年４月 17 日（水）　10:00～12:00

２　開催方法

オンライン開催

３　参 加 者

【長野県立大学】こども学科長　太田　光洋（信州幼児教育支援センター長）
【長野県保育連盟】会長　海野　暁光
【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】理事長　大森　けい子
【長野県野外保育連盟】理事長　内田　幸一

	こども・家庭課	課長	中坪　幸恵
		保育係長	大口　泰弘
		自然保育普及推進員	藤田　良子
		幼保連携推進員	丸山　未希
		保育専門推進員	川上　真美
	県民の学び支援課	幼児教育支援専門員	久保田　学
【長野県教育委員会】	教育次長		曽根原　好彦
	教育政策課	主事	倉澤　　萌
	学びの改革支援課	課長	臼井　　学
		主任指導主事	田中　　誠
		指導主事	小川　浩貴
		幼児教育コーディネーター	橋爪　典子

４　内　　容

（１）挨拶：曽根原教育次長

・当センター設置の目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。第４次長野県教育振興基本計画では、【「探究県」長野の学び】を掲げ、個人と社会のウェルビーイングを目指している。その根幹が幼児教育、とりわけ遊びにあると考えている。幼児期における遊びを通した総合的な指導の充実が、「学びの改革」の基盤となることから、当センターの役割は極めて重要であると認識。

・遊びを中心とした保育の充実と円滑な園小の接続を目指し今年度も様々な研修を計画している。フィールド研修 ミドルリーダー研修では参集での研修を増やし 実際の保育の様子から学び合うことができるようにした。研修に臨むにあたり 参加者が自身の課題を明確にして研修に参加できるよう往還型 探究型研修の内容の充実を図りたいと考えている。

・また来年度以降を見据え、自立して学び続ける保育者の育成を目指した地域自走型の研修体制についても議論を重ねてまいりたいと考えている。

・本日は皆様方からご意見をいただくことで本年度のセンターの事業の運営の方向を明らかにしたい。忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いしたい。

（２）協議

①　令和６年度信州幼児教育支援センター事業内容について

【田中主任指導主事】

・センターの設置について
・遊びを中心とした保育の充実について
・園小の接続の充実について
・自立して学び続ける保育者の育成について

【太田センター長】

・今年度の運営事業について、質問等。
・例えば 幼児教育推進リーダー会議を中心にした地域自走型の研修実施は、具体的に動かすところをどのようにすればよいか考えている。それぞれの地域で進めていくためにどのようにしたらよいかアイデアがあったら伺いたい。

【海野会長】

・園小中に浸透させ事業を充実させるということについて、特に園小接続を市町村に働きかけると長野県内においては公立の園と公立の学校が接続をするというのがやりやすいようだ。距離的にもそうですし声をかけやすいということにもなる。なかなか私立が入っていけない現状。公立のそれぞれの園小がどれぐらいの研修を重ねているかというとなかなか研修が進んではいないのが現状。ここにも書かれている「目指す子どもの姿」を示していかなければいけないと思っている。「目指す子どもの姿」とは具体的に何かということをしっかり示していかないといけない。
・地域のリーダーの連携について、グループの中にセンターの事務局だった OB が入った。事務局の OB がこれからも入っていくことを強く願う。

【太田センター長】

・園小接続は確かに公立が多い。私立は、複数の園から小学校に上がってくる。小学校もそこの連携をどのようにしたらいいか足踏みをしている。一つの園と連携するのが難しいようだ。一つの園との連携でもよいと思う。そういった形も考えながら小学校の受け入れをぜひ考えてほしい。

【大森理事長】

・小諸市は幼児教育推進委員会を平成 23 年度に立ち上げた。小諸市は 60%が私立幼稚園協会という珍しい市だ。私立幼稚園の現状を市長、係長もよく聞き入れてくださる。年に４回の推進委員会と、それ以外に毎月子ども課の係長補佐も参加する園長会議がある。市町村の担当者が集う協議会ができるようになるといい。公立の園長会もあるが、不適切保育やその防止についての話題が多くなり、幼児教育が話題に上がりにくいようだ。私立幼稚園協会認定子ども園協会でも年間通していろいろな研修をしており、それについての報告をしたり誘ったりというようなことを進めている。推進委員会には教育長をはじめ小学校の教頭も参加し、総合的な話合いがされている。

【太田センター長】

・市町村の担当者との連携は力を入れているところだ。担当者自身の必要感というか、そういうところで温度差がある。発信が重要になっていく。市町村の担当者から各園に届くような工夫や目指す姿等についても、強い発信が必要なのではないか。

【内田理事長】

・今の地域リーダーの育成や連携の支援について、地域の縁、つながりという機会を設定しづらいということがある。公立であろうと私立であろうと話合いの場面を作ることがこれからの課題だと思っている。園種を超えて保育についてや子ども観についてなど、遊びを

中心にした保育のあり方についてお互いが言葉としてやり取りする場面というのは最も重要だと思っている。大田先生が言われたが、推進リーダー会議をどんな内容でやっていくのかというのは一つの課題だ。実質的にその時間をどうやって確保するか。そういった問題をクリアしないと形になっていかないなと思っている。重要課題だということは認識している。充実するようなことをまたアイデアを寄せたいなと思っている。

【太田センター長】

・研修会もいろいろあり、オール長野でやろうというのだから、それぞれの団体での研修に乗り入れられるとよい。大森先生や海野先生や内田先生にはご協力いただきたい。研修を少し整理して時間を作る方向も。

・いろいろな園を見たり園長先生たちの会議とかに出たりする機会がある。公立の園の中には例えば園庭に木がないところがある。何気なく「園庭に何か実がなる木とかあったらいいですよね」と話をすると「いやいや虫が出て大変だから」と言う。市の人はやっぱり木があった方がいいなと植えたりする。しかし、何年かするといつの間にか木がなくなっている。誰のための保育なんだということになる。そういったところも実際にはある。そういう意味でも子どもの姿や環境には強い発信があり、これっておかしいんじゃないかと感じられるようになってほしいと思う。話合いをする時間がなかなか取れないということがあるので、実践をまとめるような、こういう取組をやっているという事例集を作りたい。ネット上に載せるのもいいが冊子にして手元に届く、保育現場の人が手に取って読めるもの。実践例は一般書が多く出ているが、長野らしい取組を紹介したものがあってもいい。目新しいものばかりじゃなく、子どもたちが毎年やっているような活動についても工夫している。そういうものが子供にとってどんな意味があるのか、あるいは我々の目指す子ども像とどのようにつながるのか。そういったものが作れるといい。今年度は難しいと思うが。

【海野会長】

・太田先生のお話を伺って。これっておかしい、ちょっと疑問に思っている、そんな若手を中心とした疑問を集めていくという面白い。若手が上に言いにくい現状があるかと思う。県として集めていく。あなたの疑問、声を聞かせてくださいという形。それも一つの手かと思う。

【太田センター長】

・面白いかもしれない。新人さんたちが新しく職場に入り、保育現場に入った時にいろんなことに気が付くと思う。海野先生が言われるようにアンケート形式でもよいので、いろいろなものを寄せもらえるような手立てを講じ、それ集約すると面白いのが結構出てくるのではないか。私たちもちょっと目から鱗みたいなのがあるのではないか。我々の方が頭が固くなっているところがあるかもしれない。

【川上保育専門推進員】

・長野県らしさという点で、保育連盟の保育部会では２年かけて全県の園長たちが集まり研究をしている。その中でテーマに沿っていろいろな研究をしてきた。例えば不適切な保育があった場合は不適切な保育にどういった手立てを持って私たちが取り組んでいったらいいかということを研究する。基本原則に則った保育をしていくにはどういうふうにやったらいいかということの解説を作る。先生たちが手に取って見ることができる解説書を２年かけて作成している研究がある。

【太田センター長】

・それぞれのところで取り組まれていることの具体的な中身がセンターで把握しきれてないところもある。センターの方で冊子や報告書を集約して、中身も拝見しながらどんなふうにそれらを生かしていくか。そういうこともあっていい。

② 令和６年度の運営方針及び事業内容について

【田中主任指導主事】

・遊びを中心とした保育の充実について
・園小の接続の充実について
・自立して学び続ける保育者の育成について
それぞれ具体的な事業について説明

【海野会長】

・園小接続で検討いただきたい。年長児が一斉にその学校に行く日を作ってもいいのではないか。学校に実際にお子さんが行ってみるという登校日。できれば１週間ぐらい行ってもらいたいが難しいかなと思うので１日ぐらいになるかと思う。実際にその学校に行ってみて、その学校の様子を子ども自身が獲得していく。個別では大変なので、この日はもう長野県内一斉に行ってみるという日にしてしまう。幼稚園、保育園、認定こども園から学校に行き、そこで１日なり半日なり過ごしてみる。その中で子ども自身も学校を知っていく。学校側もこういうお子さんがいるんだなと知ったり、保育者側も学校行ってこういう生活するんだなと理解したりすることも期待できる。
・今は、子どもが実際に行くっていうことが少なく、書類上でやり取りをすることが多い。気になるお子さんの様子を書くと「何々ができない」などのネガティブな内容を記録をし、それを学校に送るということもある。それを読んだ学校側が警戒をし、この子にはもうちょっと違う環境、あるいはいろんな手立て、発達に対する支援等をしていかなければいけないなということになる。いい連携にはなっていない。
・それを直すために提案としてそんな日を作ってもらえると、保育者も学校でこんな生活するんだなっていうのが分かる。子どももそうだ。学校の先生には子ども自身を見てもらいたいなと思っている。できた、できないだけで評価されてしまいがちなので、子どもの様子を見てお互いに交流できる日があればいいなと思っている。
・このごろ研修や保育内容の研究に後ろ向きな園がどんどん増えてきている。忙しいということを理由にしてかなり後ろ向きだ。とにかくその日が精一杯というような状況が増えてきている。ミドルリーダーの育成をすることになっているが、どちらかというとリーダーが前を向かない現状がある。ミドルリーダーを育てていくということは大事だが、リーダーの育成というのも必要ではないか。
・各団体の研修相互乗り入れは素晴らしいなと思う。ぜひ協力したい。

【太田センター長】

・以前から、園小接続で１週間ぐらい学校行ったらいいのではないかと話されていた。面白い取組だと思う。学校の先生、保育者も一緒にそれぞれの子どもの姿を共有したり、生活を理解したりしていくっていうのはよいなと思う。一斉にできるところまではどのようにしたらよいか、難しい。できるところから広げていけたらよい。
・研修について、質を上げようと思うと研修や研究に前向きにやってもらいたいと思う。しかし、なかなかそうなってないっていうのは状況として肌で感じている。工夫がいる。若手からの率直な意見を反映させていけるかという取組は、起爆剤になるのかなと思う。

【大森理事長】

・フィールド研修に関して私立幼稚園協会の方からお願いがある。今までオンラインがほとんどだったが今年度参集ということで、ぜひ私立幼稚園協会で行っているインセックという公開保育と一緒にできないだろうか。コーディネーターを育成し、そのコーディネーターが中心になって公開保育をやっている。今までコロナでストップしていたのが前向きになり、推進委員会でインセックを少しうまく回そうという話になっている。フィールド研修とうまく噛み合わせていただくと参加された方も実際の保育を見ていただき、「問い」

に対して話合いができる。視点が変わり、フィールド研修に広がりや深まりができるのではないか。４地区全部同じような形式でなくても、基本がしっかりしていればインセック方式を取り入れていくことで参加者も多くなる。幼児教育への理解も深まるのではないか。県の方も考えていただきたい。

【太田センター長】

・インセックは公開保育をされているか。参加者の様子はどうか。園や地域によってだいぶ差があると聞いているが。

【大森理事長】

・公開保育について、かつては４年に１回長野県大会があり、各エリアが全部公開保育を行ってきた。それに代わりインセック公開保育を進めていこうという話になっている。参加者については、認定こども園が増えている中でどのくらい取り込めるかというのはまだまだこれからのことだ。今年は公開保育をしない。充実した公開保育をするためにみんなで勉強しようという年にしたいと思っている。来年からは公開保育を実施したい。フィールド研修とうまく噛み合えばいい。

【太田センター長】

・新しい連携の形になる。実際に公開保育を共催していくことは内容的にも共通するところがあると思う。ぜひ検討していければ。

【内田理事長】

・公開保育の関係について、フィールド研修でも、リアルで様子を見ることができるように今回期待しているところだ。野外保育の方でも現場研修をやっている。そこに園種を超えて実際に保育の様子を見ていただいて参加者がいろいろ意見交換することが実りのあるものになると一番思っている。

・先生たちが忙しいと言ったらいいか、なかなかその時間を確保すること等が現状としては難しい。「研修を受けたい」「研修を受ける」と言っても保育から抜けられなかったり、実際にその現場研修に行きたいのだけれども人手がなくてなかなかそこに参加できなかったりする。そういう問題は背景としてある。仕事が忙しかったり、時間がなかなか抜けられなかったり、人手が足りなかったり、そういうことがある。気持ち的には前向きに取り組みたいのだけれども、どうしてもそういうものがあって、消極的にならざるを得ないというか。研修へ積極的に参加するっていうところまではなかなかつながっていかないというのが今の課題ではないか思っている。リモートだけでは片付かないので、やっぱり現場研修だ。各職場の環境整備も含めながら研修体制みたいなものにつながるようにというのが今後の大きな課題になるのではないか。

【太田センター長】

・参集型の研修はよいなと思う。今はなかなかこう人手がなくて出られない、そういったところでオンラインの研修とかを兼ねてやったり参集でやったものを映像で記録ができれば後で見ることができたりする等、工夫しながらやらなくてはいけないところがあるか。参集して保育を実際に見て、そこで意見を交わす。自分が聞きたいこともオンラインでやるよりは話しやすいだろう。そのように学び合うことは大事にしていければよいと思う。参加者が少し減るのではないかという話があったが、多少減ることは覚悟して、でも来た人にはよい学びになるように組み立てていけたらと考えている。

【丸山幼保連携推進員】

・お話をお伺いし、今までコロナ禍で参集型ができなかった。園への訪問が今後はできる、体験できるとなると、現場の保育士や来園する方も自分自身の五感を使って感じられる、学びが得られるのかなと思う。今はハイブリッドでできる。その強みも生かしつつ参集型でもやっていかれたらと思う。

【藤田自然保育普及推進員】

・先ほど内田先生もおっしゃっていたが、園の先生方が仕事が忙しいとか人手が足りないということで、研修を受けたいのだが受ける時間を確保することが難しい。研修への気持ちが前向きにならない、目の前の仕事をやらなきゃいけない、そういう現状だと思う。信州型自然保育の方でも参集型だったりハイブリッドだったり、それからオンラインだったりする。先生方は学びたいということが非常にあると思う。参集型だと自分で保育体験をしたり子どもに触れたりする。また、自分が実際に、例えば泥団子を作るということをやってみた。そういうことをやると喜々として学んでよかったと言って帰っていく。求めているときに応じることが大事かなと思う。

・遠方の保育園の方たちも研修を求めているが、参集で来るにはとても大変だ。そういう方たちはやっぱりハイブリッドや映像がありがたいという声も聞く。様々な手法を使う。県内は広いが、やりたいという気持ちを叶えてあげられるような研修を作っていくといいと思う。

【太田センター長】

・直接の参加がなかなか難しい地域もある。そういう地域にこちらから誰かが行く形も取れたらいいなと思う。そういう意味では、こども・家庭課でもそうだし教育委員会でもそうだが、それ以外のところでも職員が出向いていく形のサポートもされていると思う。庁内の連携になるのか分からないが、うまくできたらいい。遠くても直接学べる機会が欲しい。ハイブリッドももちろんだ。オンラインでももちろんいいが、直接というところがよい。地域によっては一つの町村に保育所がいくつもない地域もある。そういったことも考えていかれたらいい。

【久保田幼児教育支援専門員】

・今日の資料の中に私立幼稚園認定子ども園の関係での研修の一覧表を入れさせていただいた。園種を超えた研修の乗り入れだ。オンライン研修に限られるわけだがその中でいろいろな園種の方たちが参加できるような体制をとっている。今日の午後も研修があるが、保育所からの十数園から申込があった。オンライン参加だ。

・参集型は非常に大事だということお話いただき、まさにその通りだと思う。協会の関係で言うと、新任研修や新任者の事前研修会、主任・学年主任研修等が参集型になっている。ただし、会場の問題や受け入れが限られる。施設との関わり等が一つ課題になってくる。全県から集まるので、飯田から長野へというのは結構厳しい。参加しやすい会場をどう確保しながら、参加者の思いに立って受け入れていくかも大事になってくると感じている。

・信州幼児教育支援センターの研修時間が 14 時からとなっていて、園としては煩雑な時刻である。スタートからの参加が非常に厳しいと言われる。思い切って時間帯をご検討いただくことも今後必要になってくるか。それによって参加したいという思いを受け入れることにもつながってくると思う。

・幼稚園協会のオンライン研修については、全てクラウド上で公開をさせていただいている。後日全て視聴できる。そんなことも大事な要素として入ってくるかなと思う。

・信州幼児教育支援センターの研修のうち、保育士等キャリアアップの対象になっている。どのように認定しているか。

【田中主任指導主事】

・キャリアステージ研修と園小接続研修についてはレポートの提出をもって受講の認定ということになっている。その研修を受けて、自分の学びであるとか、自分の実践にどのようにつなげていくかとかリフレクションできるような内容にしている。お答えをいただき、提出を確認できた参加者を一覧にし、こども・家庭課にお伝えをする。この日間違いなく研修を受講したとお伝えし、認定の手続きの方に回していただいている。

【太田センター長】
・キャリアアップ研修も受けっぱなしということではなく、リフレクションをしっかりやる形はどこでもされているのかなと思う。こども・家庭課も同じだ。
・今いろいろアイデアをいただき、内容によってオンラインでやっても大丈夫っていうものももちろんあるだろう。参加しやすい場所や時間の設定についても話題になったので、検討できればと思う。
【教育政策課　倉澤主事】
・研修がたくさんある。それぞれ目的は多分違っていて、それぞれの重要性があるとは思うが、忙しい現場にある程度の負担があるということも事実なのではないか思う。それぞれの研修の打ち出し方を工夫し、「研修の目的はそれぞれ異なっており、数は多いが重要で実りのあるものです」というような打ち出し方もしていければよりもっと先生方のモチベーションもアップするようなものになるのではないか。
【橋爪コーディネーター】
・参考になるご意見いただきじっくり考えていきたい。その中でフィールド研修について。コロナの関係でしばらくオンラインしかなく、今年いよいよ参集型に取り組む。いい研修、参加してよかったと思える研修にしていきたい。その中の一つのポイントは話合いのファシリテーター役が重要になってくるのではないか。参加者は少なくなると思うが、大勢いても現場の方の負担にもなる。減るのは致し方がないとも思う。
・保育は、子ども理解にしても環境構成にしても本当に難しく、先生方は毎日悩みながら試行錯誤しながらやっている。自分の保育の質を高めたいっていう気持ちはとてもある。昨日も初任者の研修に行ってきた。みんなキラキラした目をして研修に取り組んでいた。学びたいという気持ちは本当にあると思う。参加者側からすると、同じ内容で研修日の選択肢がたくさんあると、「この日は保育園の行事と重なったが、こっち研修だったらいけるな」等と選べる。主催者とすると一つ一つの研修を充実した研修にしたいので参加者が少ないとどうだったのかと反省をすることになる。
・一つお聞きしたい。海野先生のお話で県内一斉に学校体験をするという面白いアイデアをいただいた。松本市も保育園、幼稚園、園種を問わずに１日入学をしてちょっと学校を体験することはしているか。それは保護者と行くことになると思うが、いかがか。
【海野会長】
・特に松本市で一斉にということはない。本当に子どもを中心とした、子どもを真ん中において園小接続というのを考えていかなければいけないかなと思い、このような話を前々からさせていただいている。各園の園長だとか各学校の校長と話し合っても、これはどうしても前に進まないのでここでアイデアを出させていただいている。

③　質の向上に係る幼児教育関係課の取組について
【県民の学び支援課】
・私立幼稚園・認定こども園協会の研修について
【こども・家庭課】
・保育士の確保対策事業　移住支援金について
（他課については資料を参照）

④　信州幼児教育支援センターの今後の方向性について
【田中主任指導主事】
・事務局より説明

【内田理事長】

・地域の自走型のところの研修体制について。場合によっては園内研修だとか実地研修みたいなものを充実しているが、これに対して例えば園内で研修する場合に映像だとかそういったもので提供はしていると思うが、逆に人が派遣できないかなと思う。講師の方のプロフィール等を公開しておき、保育の充実に関する園内研修をこんな内容でやりたいからこういう講師を派遣してくれないか、というシステム。いわゆる出前講座的なものを要望があればできるような体制づくりができないかと思っている。

・講師の先生も忙しいので大変だと思うが、小規模なというか、園ごとでもいろんな事情を抱えていると思う。その園の特質みたいなものがあると思うので、園の中で内部研修をやるというのは非常に効果的だなと思う。それから、次のリーダーを養成していったり、地域連携型でいくつかの園が共同的にその研修会をやったりするというところでつなげていければと思う。

【海野会長】

・今、学級担任制じゃなくて教科担任制を小学校３年、４年でも始めるというような報道がなされている。一人の担任がすべてを賄うという考え方がだんだんなくなっていく中で、保育においてもチーム保育という考え方をどんどん推進しなければいけないだろうと思っている。それも含めてだが、今学校教育だとか保育はこういう方向に変わっているんだという、大きな流れの理解というか、あるいはそういったものをみんなで共有し合うとか話し合うとかという、そういう機会があってもいいかなって思っている。今どうしても目先のことで精一杯で、不適切保育ならば不適切保育に重点が置かれてしまう。もう少し遠くを、今目指しているのはこんな方向だというのをみんなで共有できる機会があるとよいかなと思っている。少し未来を語る会。そんなものが共有できるものがあってもよいかなと思う。

【内田理事長】

・遊びを中心とした保育の部分に入ると思うが。子どもの成長過程の中で、主体性だとか自立性だとか、それらがこの遊びを中心にした保育とどうつながっているのかということが一般的にはあまり理解されてないのではないか。まあ保育現場でもそうじゃないかと感じる時がある。保育者が提供した課題、保育者が提供するいろいろな様々な活動、それに対して子どもたちがどのように内容を理解したのか、それに対してどういう風に子どもが動いたのかというような方向に視点が向きがちだっていうのは感じる。だからそこを変えていかないと、遊びを中心とした保育みたいなところを推進していく上では一つの壁になってしまう。遊びや自由時間、自由遊びを十分保証できるように、保育計画自体を見直さなきゃいけない状況というのはかなりあると思う。研修だけで理解できるのか。そのためにフィールド研修があるのだとも思う。

・この一つの課題をどう乗り越えていくのか。研修のあり方自体もやっぱり考えていかなければならない。先ほど言った、現場で共有していく、現場の中で問題提起をしていくような。実際の姿を見ていくみたいなことを根気よく続けていくしかないのかなと思っている。

【大森理事長】

・みなさんと同じような気持ちで聞いていた。自由保育が、保護者、社会の中で長い日本の保育文化の中で認めていただけないのが現状だ。実は娘が保育園を４年前に設立した。最初からその自由保育、子ども主体の遊びをということで、行事を一切しないという前提で保護者の方は通園してくださっている。中には３歳になると、やっぱり行事を行いたいからと言い、他の園へ移る保育者も今年は一人いた。その中で、養成校の生徒さんたちが見学に来て「ここの保育は勉強してきた保育だから、すぐ就職したい」という話にもなった。これからは本当にその４年生の生徒さんたちが今年４人も就職してくださった。私たちに

とっては嬉しい結果が今出てきている。その自由保育の良さというのが、これからますます社会や保護者の皆さんに伝わっていくことを願いたい。子どもたちの将来が幸せになるための保育っていうのは、この乳幼児時期に大切だということが、メディア等にも伝わっていくといいなと思っている。

・鼓笛隊をやっていた幼稚園さんが思い切って辞めたと聞き、頑張ったんだねってと言ったら、いまだに保護者の方はもう一回復活してもらえないか、そんな要望もあるなんていうのが現実。なんとかその子どもたちが自由保育主体の保育の中で、どんな育ちを見せて小中高、そして社会人になり、人間としてルールが守れるとか協調性がもてる人間になるとか、優しさとか感謝の気持ちとか、具体的に保護者や地域の皆様に広がるといいなと思っている。

【太田センター長】

・やっぱりそこは何か発信が大事だなと思う。冒頭の次長の挨拶にもあったが、探求県長野、要するに幼児教育だけじゃなく、その先も含めて子ども自体の主体性、幼児期の遊びの大切さ、行事に追われるような保育ではないものの大切さを一緒に伝えていかれるとよい。幼児教育はこうだっていうだけではなく、その後の教育とのつながりみたいなところを強調していろんなところで発信していく。この発信は、頑張ってメディアをできるだけ活用してできたらいいなと思う。事務局に頑張ってもらいたい。

・ぜひあのお子さんの理解、なかなかやっぱり難しい。今の保育時間がどこも長くなっているから習い事みたいなものはしにくくなっている等、そういう事情もあって保育の中に外部講師を入れる取組、習い事のような要素を入れる園もある。親の要望に応えざるを得ないというようなところもあるのかなと思う。幼児期の学習は遊びが中心だということを広めたい。

【田中主任指導主事】

・今の点で。すごく大事だなと思っている。センターにいると保護者の方とのつながりが全くない。今できていることといえば、年２回から３回の保育雑誌への掲載だけだ。その内容がどれだけ保護者の方の手元に伝わっていて、どれだけの方が読んでくださっているのかなっていう手応えを感じることができない。

・小学校で学級担任をしていた時は学級通信を出していた。学級通信を出すことで担任の考えやクラスの様子をお伝えしてご理解をいただくことが近道だと個人的には思っていた。今はそれができてないのだが、「センター便り」のようなものが各園を通して保護者の方にお読みいただけるようなものがあってもいいのではないかと思ってはいる。そんなことはできるのだろうか。センターが書いたものを保護者の皆様のお手元に届くためにはやっぱり園を通して見ていただくということになる。

【海野会長】

・pdf で流すことができる。全然費用もかからない。

・あるいは対談の方がいいなとも思う。対談形式にして太田先生と田中先生と大森先生と内田先生と私とかで対談形式にして配信してもいいのかなと。いろいろな手立てはあるのではないか。

・若手の先生の「ここが変だよ」というものに答えるなど、保育者の疑問に答えつつ実は家庭面での質問に答える。そういうことはコンテンツとしてできるのではないか思う。家庭向けに発信することはコンテンツとしてできるのではないか。

【内田理事長】

・県のレベルで信州幼児教育支援センターがやっていくということになると保護者や一般の社会全体に対して情報発信、幼児教育がこういう形に長野県としては進めている、そのことがどれだけ大切なことなのかということ、それが未来につながっている、そんなような

ことをいろいろな媒体を使いながら情報発信は積極的にぜひやってもらいたいと思う。いわゆる長野県らしい、長野県独自のとか長野県の魅力を生かした子ども像みたいなものを発信していくというのは、これから戦略的に必要だと思う。それで信州型自然保育の認証制度を作っていただいたことによってこれがやっぱり全国に広がっている。全国に広がって各市町村だとか県の単位で似たような制度を導入していこうという動きも出てきている。かなりそういう情報の時代だと思う。方向性としては同じ方向だ。長野県の方向性としては同じ方向だと思う。幼児教育のあり方みたいなものをせっかくなのでどんどん発信できるようにしたい。お便り的のようなものでも構わない。社会に向けて情報発信をしていくということが今後の課題かなと思う。

【太田センター長】

・確かにそうだ。そこは頑張ってやっていく

・今いただいたご意見を含め、少し練りながら進めていきたいと思う。できそうなことはできるだけ早めに着手をしていきたい。

＜事務連絡＞

【田中主任指導主事】

・次回の運営会議　10 月 24 日（木）オンラインにて開催予定